

飾るふた

Decorative lid

川久保 奏羽



ふただって主役になれる！

飾ることを考えても見る時、その人のセンスや好みによって“主役、になるものが変わると思います。十人十色の飾り方で主役と脇役が入れ替わる瞬間がある、私はそこに魅を感じました。この制作の目標は、存在する位置によって価値にギャップのある蓋に、飾りの要素を付加する事でその瞬間の魅を表現する事です。

Even the Lid Can Be a Star!

When looking at things from a decorative perspective, I think that the "star" of the show changes depending on the person's taste and preference. I felt inspired by the fact that there are moments when the main and supporting roles in decorations swap depending on the way people display things. My work's goal is to express this fleeting magic by adding an element of decoration to the lid, which shifts its value depending on its placement.



1 閉まっていた時にはっきりとしたモチーフがなかったふたが王冠になることで、特別感の演出を期待したお弁当箱です。

2 ふたをしている時、不思議な色合いで葉っぱが横から見えます。ふたを開ければ花が咲き、いつも見ない歯磨き粉のふたの裏にも特別感があれば楽しいと考えました。

3 これは一体・・・？
正解はおもちゃ箱です。アニメーションから出てきたような植木をモチーフに、ふたを開ければ雲のプレイマットに変身します。